



豊玉二中だより

令和5年度 第6号
発行日 10月2日(月)
練馬区立豊玉第二中学校
校長 神山 信次郎

支え合う心

副校長 新井 智子

埼玉県人権擁護委員協議会長賞を受賞したAさんの作文を保護者及び本人の許可を得て掲載します。文字数が多いので改行を省いた部分があります。

僕は生まれたときから足が不自由です。僕の歩き方がみんなと違うと気付いたのは、小学校に入学したころでした。僕は運動会で走ることが恥ずかしくて、また走ったら転んでしまうのが怖くて、運動会の徒競走や走る団体競技には、三年生まで出たくなくて出ませんでした。

僕の歩き方を真似してからかわれたこともあります。でも、そんな時いつも先生や、優しい友達を守ってくれました。少しずつ周りの友達が僕の足のことを理解してくれるようになり「何して遊ぶ?」「サッカー?」「でも、サッカーはAさんがうまくできないから、他の遊びにしようよ。」と、いつてくれたこともあり、僕みんなと仲良く遊ぶことができました。

四年生の運動会から全部の種目に参加するようになりました。それからはもう恥ずかしいという気持ちがなくなったからです。そして、みんなで運動会に参加することがとても楽しいと思ったからです。いつも徒競走はダントツでビリでした。

「あの子、足が悪いのかしら?」と、僕のことを知らない人たちの変な声も聞こえてきましたが、僕はみんなと一緒に走ったことがうれしくてたまりませんでした。

持久走大会では、1500mを走らなければなりません。でも、最後まで走りました。靴が擦り切れてしまいましたが、ゴールを目指して走りました。みんなが「がんばれ、がんばれ。」と、大きな声で応援してくれました。そして僕はゴールができました。とても足が痛くなったけど、毎年必ず完走しました。それはみんなの声援があったからです。その応援はいつもうれしかったし、足が悪いことを気にする気持ちもどンドンうすくなっていきました。

中学校に入学してからは、友達に誘われて、ソフトテニス部に入部しました。きつい練習も毎回参加していました。足のせいですぐコートに転んでしまうことがあったけれど、みんなは「ドンマイ」と励ましてくれました。本当は僕のせいで負けてしまうこともあるので、僕とペアになることが嫌なこともあったと思うけれど、みんなはありのままの僕を受け入れてくれました。中学2年生のときの大縄大会の練習ではいつも僕の足が縄にひっかかってしまい記録をのばせませんでした。でも、誰一人として「Aさんがいなければ勝てるのに。」とは言いませんでした。大縄大会当日はなんと二位になりました。僕も足を精一杯上げて頑張ったけれど、二位になれたのはみんなの優しい気持ちがあって団結が生まれたからだと思いました。

僕はもうすぐ中学を卒業します。今まで多くの友達に支えられて充実した中学校生活を送ることができました。みんなに心から伝えたい。「みんな、ありがとう。」卒業したらみんなそれぞれの道を歩むけれど、僕はみんなの心を忘れないで、どんな人にもどんなことでも全部平等に受け入れていく人になっていきたいです。

Aさんが前向きになれたのはまわりの人のおかげです。人に優しくする心の大切さが身に染みる作文です。どんな困難なことでも乗り越えていく心の強さをと、支えてくれている人への感謝を常にもっていくことが大事なことだと考えさせられます。